

世界温泉地サミットを開催しました

大分県観光・地域振興課

世界各国の温泉地のリーダーや研究者等が一堂に会し、温泉の活用による地域発展の可能性について議論する、「世界温泉地サミット」を5月25日(金)～27日(日)に別府市のビーコンプラザで開催しました。

冒頭、主催者である当県の広瀬知事が、「温泉地の交流により、観光や医療・健康、さらにはエネルギーなど多面的な分野での活用について情報を持ち寄り、交換し、発信していくことが大切です。そして、世界の人々に温泉の魅力をPRし、理解していただき、利用していただきたいと思います。将来はさらに、各国の温泉地にお客様が増えるようになれば良いと思います。今回のサミットはそのようなことを期待しながら開催させていただきました。3つの分科会で大いに議論し、皆様方に実際にエクスカーションで見えていただき、交流を深めていただきたいと思います」とあいさつしました。



全体会では、前国連観光機関(UNWTO)アフィリエイトメンバー部門長のヨランダ・ペルドモ氏から「サステイナブル・ツーリズムと世界の温泉地の更なる発展可能性」と題した講演をいただきました。その中で、「観光で世界に発信するには、その場で体験したいと観光客に思わせることが大事。「温泉」に食などを組み合わせることで世界を惹きつけられる。官民が連携し、観光商品の特色を出し、ブランドを構築することが必要」というお話をいただきました。

続く事例発表では、①観光、②医療・健康・美容、③エネルギーそれぞれの分野で、世界各国での事例についてお話をいただきました。

観光分野では、カンパニー・ド・ヴィシー(フランス)CEOのジェローム・フリポ氏から温泉観光地として名高いフランスのヴィシー市における温泉資源の活用について、医療・健康・美容の分野ではアバノ・モンテグロットホテル協会(イタリア)元会長のマッシモ・サビオン氏から古代よりその豊富な温泉資源が有名なイタリアのアバノ市の取組について、そしてエネルギー分野ではブルラグーン・アイスランド(アイスランド)研究開発担当役員のアーサ・ブリンヨルフスドッティル氏より、地熱発電所からの地熱資源を利用した広大な温泉施・ブル



ジェローム・フリポ氏 (フランス)



マッシモ・サビオン氏 (イタリア)



アーサ・ブリンヨルフスドッティル氏
(アイスランド)

ーラゲーンでの地熱エネルギーの多様な利用について、それぞれ発表をいただきました。

午後からは、それぞれの分科会に分かれてディスカッションを行いました。それぞれの分科会では非常に活発な議論が行われました。

(1) 観光 「ONSENツーリズムの新たな可能性」



いろいろな関係団体とのコラボレーション(協働)により、新たな可能性が生まれる。また、本質的な幸福に繋がる心の癒やしを追求していく。温泉地での長期滞在を図るためには、例えば、高齢者に的を絞るといった戦略も大事。

(2) 医療・健康・美容 「健康寿命延伸と癒やしのための温泉活用の展望」



温泉利用のトレンドはクアからウェルネス(健康増進)、美容に向かっており、ソフトエビデンスの収集と蓄積、分析を通じ、温泉のウェルネスへの効用の検証と情報発信を行う。欧州では、ウェルネスの次に何を指すかという議論が高まっており、スピリチュアリティの健康として、日本の温泉文化が注目されている。

(3) エネルギー 「温泉の持続可能なエネルギーとしての利活用」



産業面や生活面での地熱エネルギーの活用のほか、災害時の電源活用や離島や山奥における発電の可能性について。また、泉源に影響を及ぼさないエネルギー利用の検討、自然環境や景観、生活環境との調和、地域関係者との合意形成による温泉地における持続的なエネルギーの利活用など。

そして最後に、世界の温泉地のリーダーがサミットで得た知見やネットワーク等を活かし温泉地の発展に貢献することや、観光や医療・健康・美容、エネルギーの各分野における温泉の活用を進めることに加え、継続的な情報共有や議論の場としてサミットを継続していくことが盛り込まれた「サミット宣言」が発表され、会場の出席者から大きな拍手をもって承認されました(サミット宣言は最終ページ参照)。